

報 会

ち か ら

静岡市相撲連盟

会 長 川上明廣

事務局 村越浩二

平成 30 年 11 月

3 7 4 号

静岡相撲部OBちから会

昭和 30 年 ちから会創立

昭和 39 年 11 月 初刊

会 長 細倉涼太

事務局 大江弘文

☆忘年会に参加しよう！

開催日時 H 30 年 12 月 8 日 (土)

開催場所 ホテルセンチュリー静岡・6 階ラベндаー
年に一回の事です、予定を立てて下さい。

☆ 静岡 120 周年記念事業着々と遂行

平成の年号最後の年に、120 周年記念を迎え設立された実行委員会は、各委員長を中心に計画された目標事業を推進し、多くの人達の参加を頂き盛大に開催されて来ました。

60 回記念と重なる静岡・静岡定期戦は、1 万人動員を目指し開催するも、残念ながら雨で途中ノーゲームとなったが、これも歴史の一齣に残るだろう。

6 月の総会記念式典には、舞の海氏の記念講演を行い、好評をいただく。この日、創立 94 年となる応援団に、新しい団旗が贈呈された。

10 月 17 日、21 日まで 5 日間、静岡市役所旧館を借り、静岡ギャラリー企画展を開催。昭和 33 年卒業の版画家海野光弘さん、静岡で美術の講師として奉職された大村政夫先生などの、彫刻作品など 150 点が展示され、期間中 3000 人に近い OB や市民の皆さんが来場して頂いた。21 日最終日は、中庭で静岡音楽部が演奏、池を囲んで 300 人を超える観衆が聞き入った。そのあと市庁舎正面玄関で、静岡音楽部、静岡児童合唱団、スパイバロックアンサンブルの合同演奏会を行い、最高の盛り上がりとなり、最後の校歌は一般の参加者も含め大合唱となる。アンコールでもう一度校歌を歌い終了となる。

17 日には記念ゴルフ大会を開催、参加者 109 人からの善意十萬九千円と、89 回同期会での募金一万円を持って、静岡新聞愛の都市訪問へ寄託する。20 日 10 時 30 分からは駿府城内堀にある静岡ゆかりの地へ 120 周年記念碑を新設、除幕式を行い田辺市長はじめ県内外の OB、関係者、校長先生生徒代表など 40 名以上が参加完成を祝った。石碑は本を模し、静岡の略歴を記してある。今、駿府城守閣が話題となっている折、城を訪れた人々がここに足を止め、「静岡の歴史と文化の足音」を感じてくれればと思う。

この後の計画は 12 月 24 日、創部 90 周年記念音楽部定期演奏会を静岡文化会館で開催します。是非、参加して下さい。

120 周年記念大相撲静岡場所については、継続検討中です。以上経過報告と共にご支援、ご協力に感謝も申し上げます。

120 周年実行委員長 下村勝彦。

静岡 溪 声 俳 句 会

深秋や茶毘の煙のうすれゆき
菊談義何時か日差ししの陰りおり
枕辺にとき刻む音や秋深し
川縁に朽ちし舟あり秋深し
菊日和榮華むなしい光堂
雲一つおいて夕月清かなり

岩崎 安次
高橋 璋
加賀美 幸
名田 幸一
佐藤 康紀
永田 峰雄

ポケットにみかん一つの散歩かな

牧田 秀峰

☆ 金足農フイバー異聞

甲子園の高校野球では、春秋連覇を成し遂げた大阪桐蔭高校よりも、準優勝の金足農高の方が話題をさらう。地元秋田では金足農フイバーなる現象をもたらし、我々にとっては金足農高といえば、相撲の強豪校でインターハイで団体優勝・個人でも毎年のように上位進出した名門校の印象が強かった。大相撲力士豪風も金足農高出身である。

昭和三十年代、当時は明治神宮野球大会が、春にも行われていた。選抜大会の推薦漏れのチームが出場したものだが、昭和三十四年の春、この大会で静岡と金足農高が対戦している。大方の予想は静岡の圧倒的有利を伝えていたが、結果は金足農高が勝利したのである。この時、就職先の東京で新聞の戦後評を新聞で見たのであるが、静岡の敗因は技術的なことではない。油断、慢心に他にならない。というくだりがあった。私自身が相撲ならともかく、まさか野球で金足農高に敗れるとは思った次第であった。記憶も朦朧な中で当時を知る野球部 OB に聞いてみた。

六十二回卒の岡本政俊氏に聞いたところ、「春先の大会で雪国の高校は冬の間に充分な練習も出来なかっただろうし、チーム内にもそういった油断・慢心的な雰囲気があったことは確かでした。ただその中から気持ち切り替えて、その年は県大会を制し、甲子園への出場を果たしたことはよかったです。」と語ってくれた。この春の明治神宮大会へは、その前年の昭和三十三年にも出場したが、この時は強豪銚子商業に惜敗している。この時の部員である六十回卒の丸山昭夫氏（焼津市時事連合会長）は、当時を振り返り、「この時の静岡は県屈指の強力打線だったが、銚子勢はそれよりも強力な印象を受けた」と語ってくれた。捲土重來を期待するのは単に野球だけではない。他の部も.....

岩崎安次。

◎ ちから会へのご寄付誠に有難うございます。

静岡市葵区本通 内山謙一 様 (57 回卒)
◎ H 30 年ちから会会費納入誠に有難うございます。

下村勝彦

◎ 平成30年度文部科学大臣

生涯スポーツ功労者表彰

去る10月5日（金）、東京霞が関の文部科学省庁舎で、スポーツ功労者表彰式が行われ、全国からの個人・団体受賞者に表彰状と銀杯が授与された。

静岡県からは下村県相撲連盟会長が受賞した。この彰は静岡県の推薦でスポーツの普及、選手育成、底辺拡大、県体育協会、武道協議会への貢献などが推薦理由とされた。

全国の個人とスポーツ・クラブ、団体など150の代表者に贈られたが、岐阜県相撲連盟の前会長簗島茂樹さんも受賞し、下村会長と同席となった。

「素晴らしい彰を頂き誠に光栄です。今年は、焼津港中学・飛龍高校が全国優勝し、又、女子も頑張ってくれました。各層の底辺拡大にはまだまだ不十分で、県相連の役員と共にこの課題に向け今後頑張っていきます。」

取材 大江弘文。



平成三十年代

生涯スポーツ功労者
生涯スポーツ優良団体

表彰式式場

平成三十年十月五日（金）主催：スポーツ庁



☆ 第23回全日本女子相撲選手権大会

10月14日（日）堺市相撲場に全国から3部門に226名の選手が参加、本県からも10名が出場する。小学生は入賞を逸したが、中学生は超軽量級の武井陽奈（熱海中）と軽量級の福里愛美（焼津大村中）の2人が、いずれも決勝戦で敗れたが2年連続準優勝となる。

一般の部には、松浦みな実（港中教諭）と上村あおい（富士宮北高校）が出場、上村は一回戦で敗れたが、松浦はベテランの味を發揮し、決勝戦でもライバル柳瀬（鳥取）を引き落としで破り、平成21年2回目の優勝以来9年ぶり、3回目の優勝を成し涙の勝ち名乗りを受ける。

大会前に、静岡関西支部支部長富阪先輩からこの大会には行けないが、京都静岡県人会から応援に行きますという連絡をいただき、当日早くから京都静岡県人会のハッピを着た森重会長さん、関西支部副支部長の高森さんなど4人の皆さんが、本部席後方に陣取り最後まで応援していただき有難うございました。優勝候補の山中未久が足のケガで休場し、野崎舞夏星も1回戦で敗れ、残念がっていたが、松浦みな実先生が優勝し、皆さん大変喜んでいただいた。大会の合間に野崎選手の母も県人会の皆さんに、お礼の挨拶に来て写真を撮ったり、短い時間だったが、和やかな交流となった。

下村勝彦。

碑文作者

120周年実行委員長

下村勝彦。

静商 歴史と文化の足音

静商は明治32年4月設立され本通りの仮校舎より翌年駿府城内の新校舎へ移転となる昭和10年9月田町の現校舎へ移るまでの35年間この地で育英の殿堂として幾多の英才を育てる。田町へ移転後も伝

統は常に変わることなく、剛健進取の校訓と波メロデイの校歌が脈々と継承され静岡の名と共に栄え、現在に至る。

今ここに120周年を迎え、由緒深いこの地に永く歴史を後世に伝えんとす。

平成30年10月20日

県立静岡商業 120周年実行委員会